

2019/7/22

柏の景気情報(2019年6月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(2019年6月分)

○ 調査期間 : 2019年6月24日 ~ 2019年7月7日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	73	46.8%
建設	44	20	45.5%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	44	24	54.5%
サービス	35	15	42.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こ3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりという意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【2019年6月の業況についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.9(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が0.3ポイント縮小した。

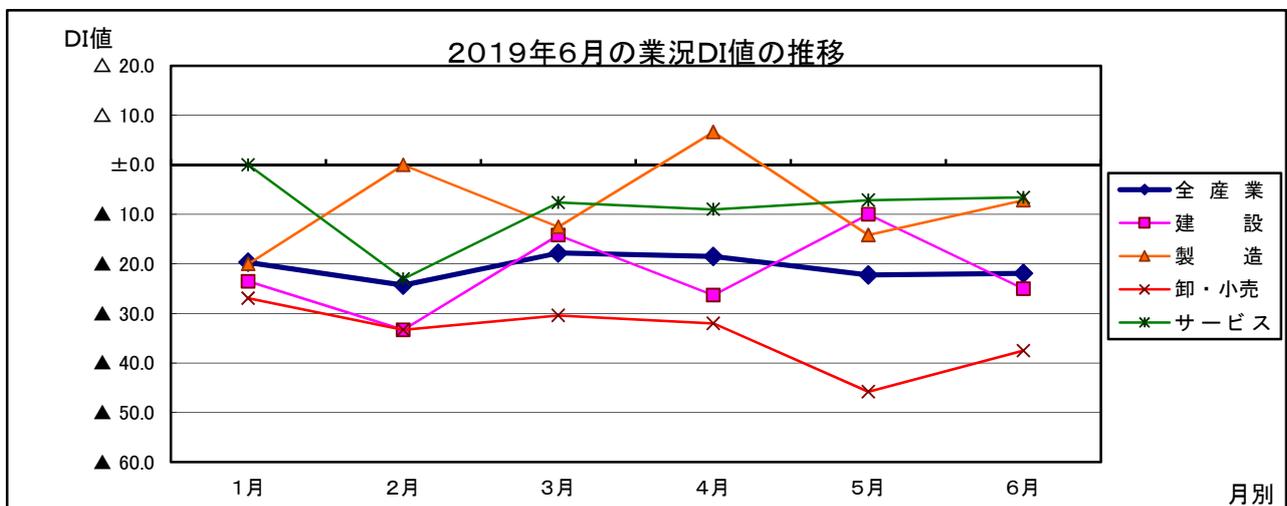
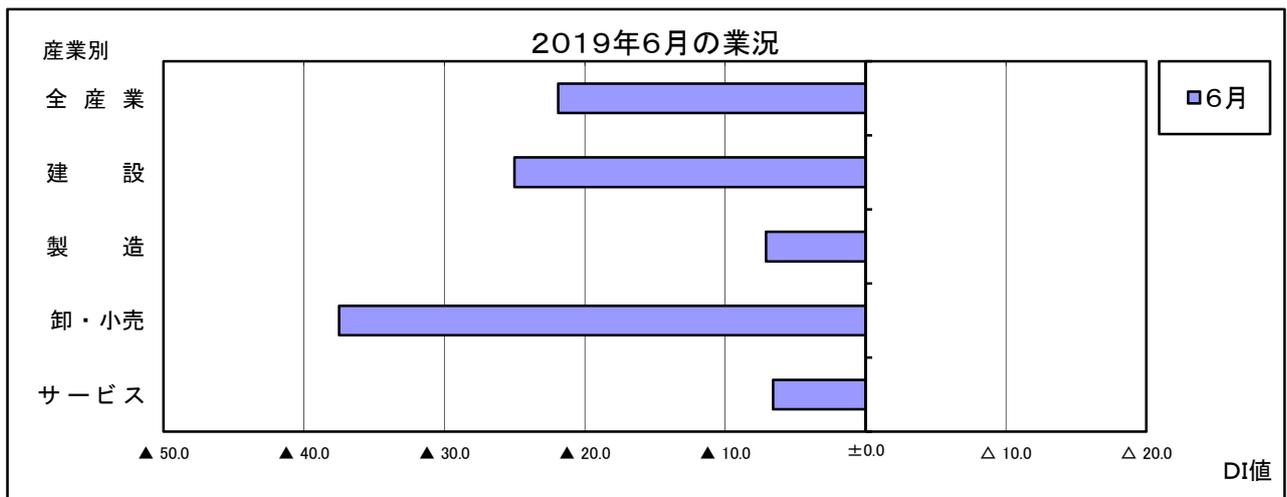
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.5(同▲45.8)、製造業▲7.1(同▲14.2)、サービス業▲6.6(同▲7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲25.0(同▲10.0)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.2(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が1.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲7.1)である。変らない見通しの業種は、建設業△5.0(同△5.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同±0.0)、卸小売業▲25.0(同▲20.8)である。

2019年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲19.7	▲24.3	▲17.8	▲18.5	▲22.2	▲21.9	▲8.2(▲6.9)
建設	▲23.5	▲33.3	▲14.2	▲26.3	▲10.0	▲25.0	△5.0(△5.0)
製造	▲20.0	±0.0	▲12.5	△6.6	▲14.2	▲7.1	▲7.1(±0.0)
卸・小売	▲26.9	▲33.3	▲30.4	▲32.0	▲45.8	▲37.5	▲25.0(▲20.8)
サービス	±0.0	▲23.0	▲7.6	▲9.0	▲7.1	▲6.6	±0.0(▲7.1)



【2019年6月の売上についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.4(前月水準▲23.6)となり、マイナス幅が7.2ポイント縮小した。

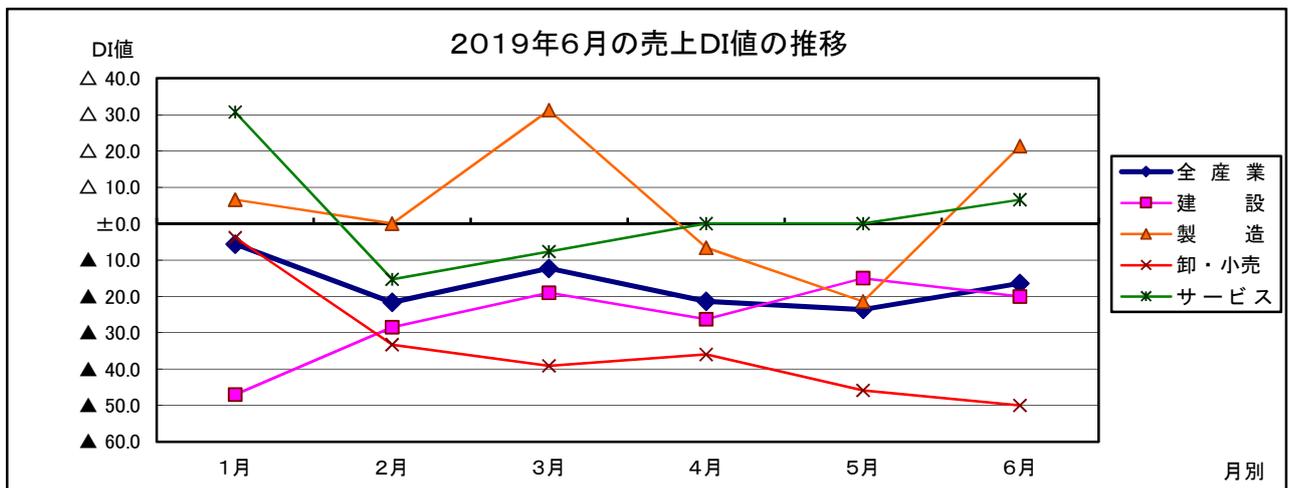
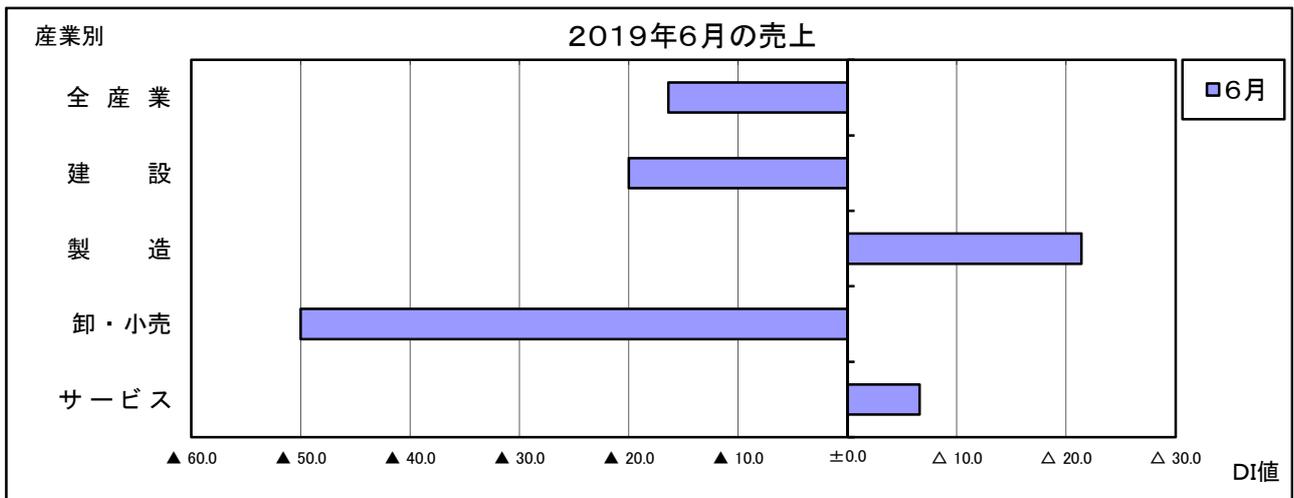
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△21.4(同▲21.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲15.0)、卸小売業▲50.0(同▲45.8)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.5(前月水準▲5.5)となり、マイナス幅が4.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△26.6(同▲14.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲14.2(同△7.1)、建設業▲5.0(同△5.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲16.6)である。

2019年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2019年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月~9月(6月~8月)
全産業	▲5.6	▲21.6	▲12.3	▲21.4	▲23.6	▲16.4	▲9.5(▲5.5)
建設	▲47.0	▲28.5	▲19.0	▲26.3	▲15.0	▲20.0	▲5.0(△5.0)
製造	△6.6	±0.0	△31.2	▲6.6	▲21.4	△21.4	▲14.2(△7.1)
卸・小売	▲3.8	▲33.3	▲39.1	▲36.0	▲45.8	▲50.0	▲33.3(▲16.6)
サービス	△30.7	▲15.3	▲7.6	±0.0	±0.0	△6.6	△26.6(▲14.2)



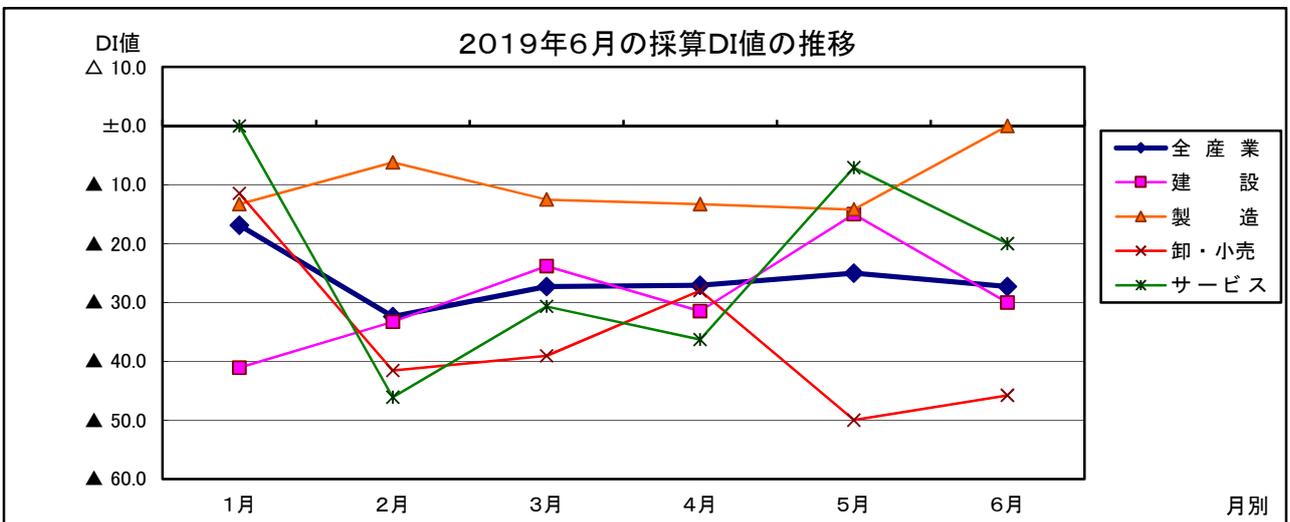
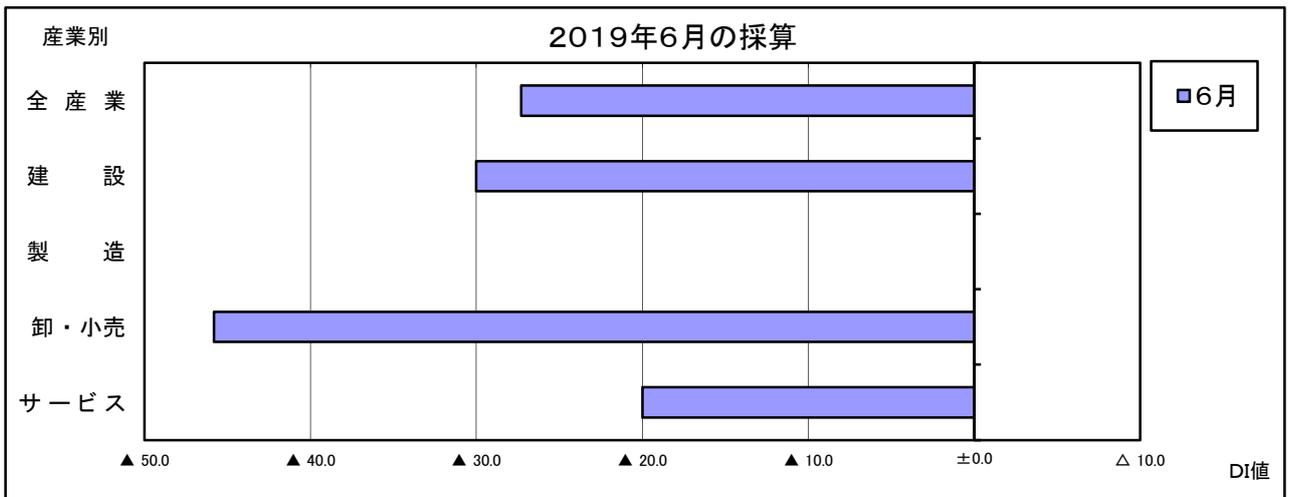
【2019年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.3(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅は2.3ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲14.2)、卸小売業▲45.8(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲30.0(同▲15.0)、サービス業▲20.0(同▲7.1)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.0(前月水準▲12.5)であり、マイナス幅が2.5ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲6.6(同▲28.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲5.0(同△5.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲14.2(同±0.0)、卸小売業▲29.1(同▲25.0)である。

2019年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲16.9	▲32.4	▲27.3	▲27.1	▲25.0	▲27.3	▲15.0(▲12.5)
建設	▲41.1	▲33.3	▲23.8	▲31.5	▲15.0	▲30.0	▲5.0(△5.0)
製造	▲13.3	▲6.2	▲12.5	▲13.3	▲14.2	±0.0	▲14.2(±0.0)
卸・小売	▲11.5	▲41.6	▲39.1	▲28.0	▲50.0	▲45.8	▲29.1(▲25.0)
サービス	±0.0	▲46.1	▲30.7	▲36.3	▲7.1	▲20.0	▲6.6(▲28.5)



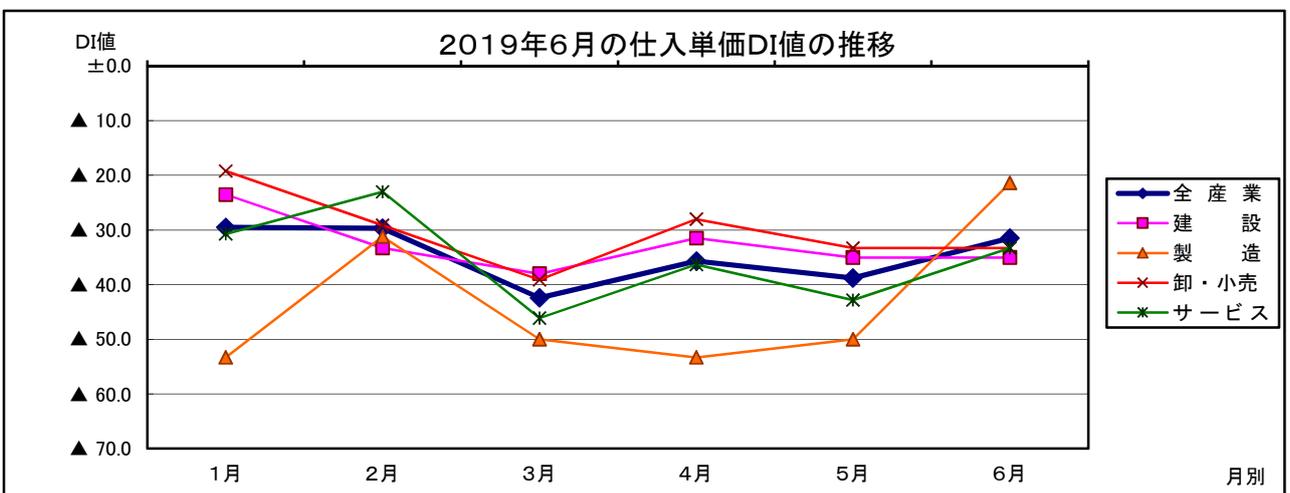
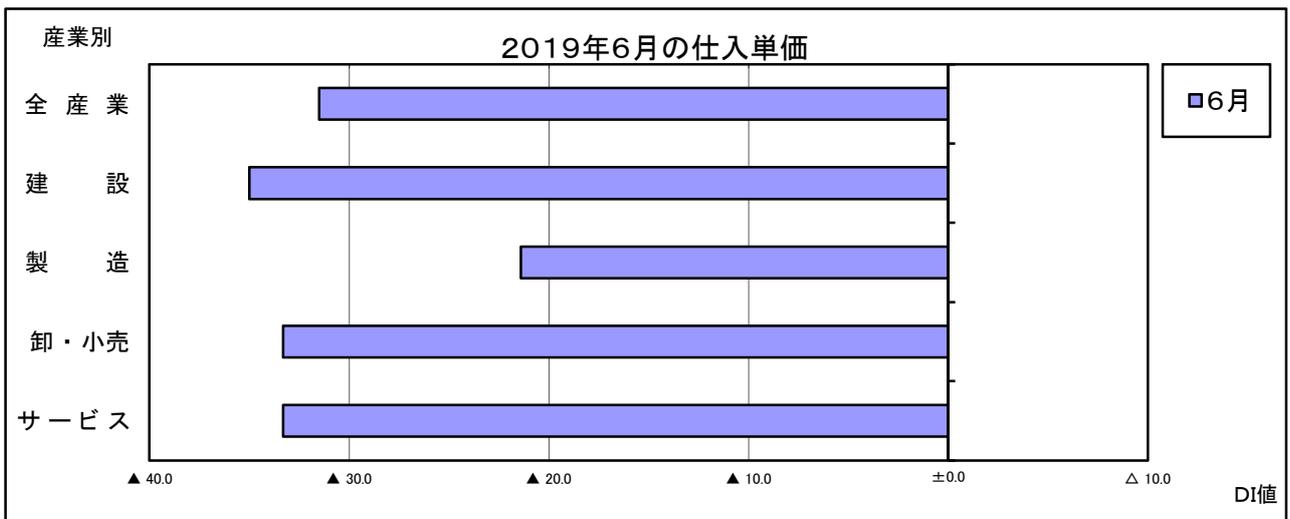
【2019年6月の仕入単価についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.5(前月水準▲38.8)となり、マイナス幅が7.3ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.4(同▲50.0)、サービス業▲33.3(同▲42.8)である。変らない業種は、建設業▲35.0(同▲35.0)、卸小売業▲33.3(同▲33.3)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.2(前月水準▲29.1)となり、マイナス幅が5.9ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲42.8)、建設業▲20.0(同▲30.0)、製造業▲14.2(同▲21.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲29.1(同▲25.0)である。

2019年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲29.5	▲29.7	▲42.4	▲35.7	▲38.8	▲31.5	▲23.2(▲29.1)
建設	▲23.5	▲33.3	▲38.0	▲31.5	▲35.0	▲35.0	▲20.0(▲30.0)
製造	▲53.3	▲31.2	▲50.0	▲53.3	▲50.0	▲21.4	▲14.2(▲21.4)
卸・小売	▲19.2	▲29.1	▲39.1	▲28.0	▲33.3	▲33.3	▲29.1(▲25.0)
サービス	▲30.7	▲23.0	▲46.1	▲36.3	▲42.8	▲33.3	▲26.6(▲42.8)



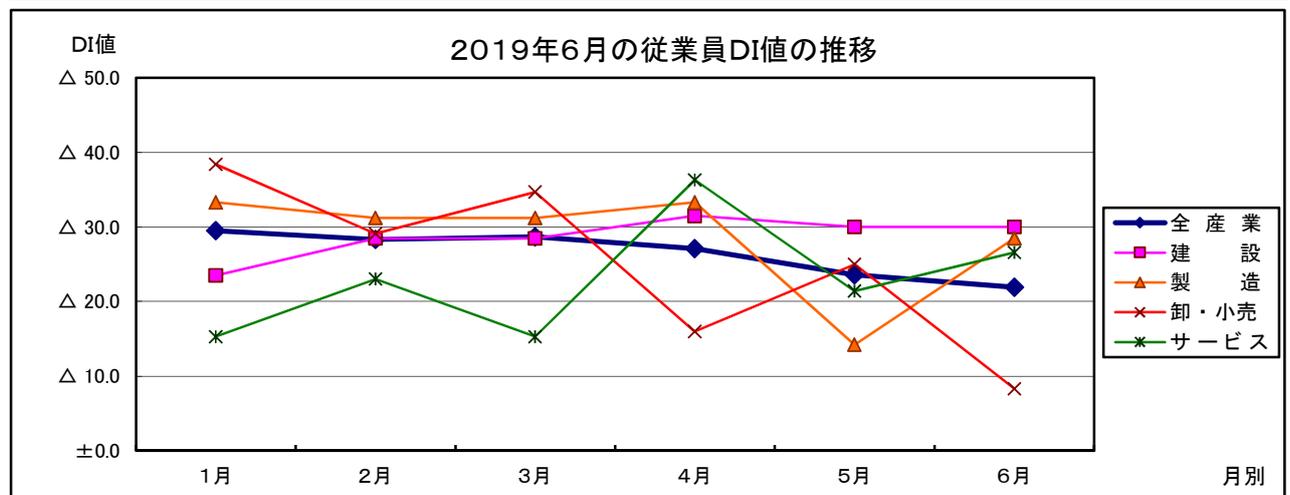
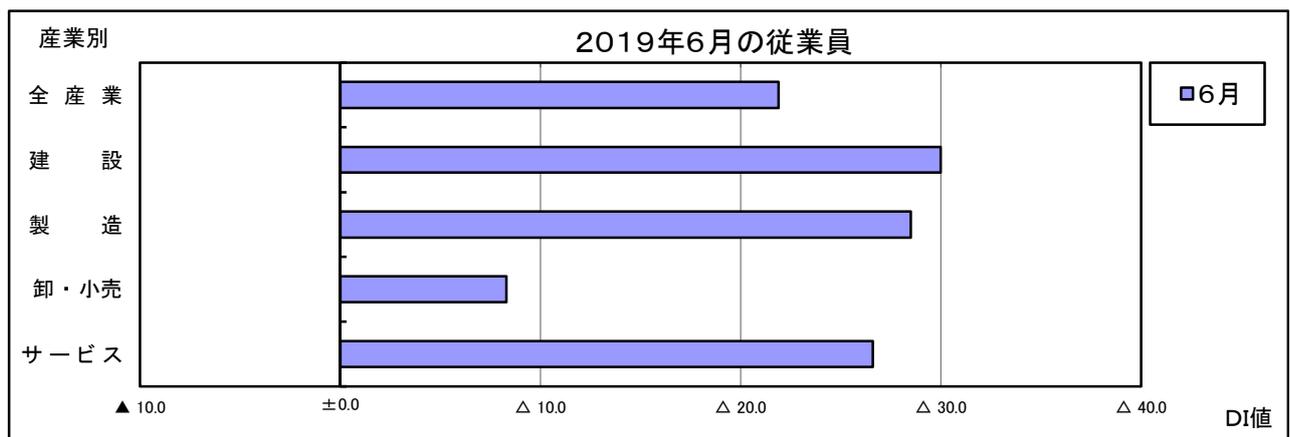
【2019年6月の従業員についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△21.9(前月水準△23.6)となり、プラス幅が1.7ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△28.5(同△14.2)、サービス業△26.6(同△21.4)である。変らない業種は、建設業△30.0(同△30.0)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業△8.3(同△25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△23.2(前月水準△26.3)となり、プラス幅が3.1ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△35.7(同△28.5)である。変らない見通しの業種は、建設業△35.0(同△35.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△13.3(同△28.5)、卸小売業△12.5(同△16.6)である。

2019年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	△ 29.5	△ 28.3	△ 28.7	△ 27.1	△ 23.6	△ 21.9	△ 23.2 (△ 26.3)
建設	△ 23.5	△ 28.5	△ 28.5	△ 31.5	△ 30.0	△ 30.0	△ 35.0 (△ 35.0)
製造	△ 33.3	△ 31.2	△ 31.2	△ 33.3	△ 14.2	△ 28.5	△ 35.7 (△ 28.5)
卸・小売	△ 38.4	△ 29.1	△ 34.7	△ 16.0	△ 25.0	△ 8.3	△ 12.5 (△ 16.6)
サービス	△ 15.3	△ 23.0	△ 15.3	△ 36.3	△ 21.4	△ 26.6	△ 13.3 (△ 28.5)



【2019年6月の資金繰りについての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.0(前月水準▲16.6)となり、マイナス幅が1.6ポイント縮小した。

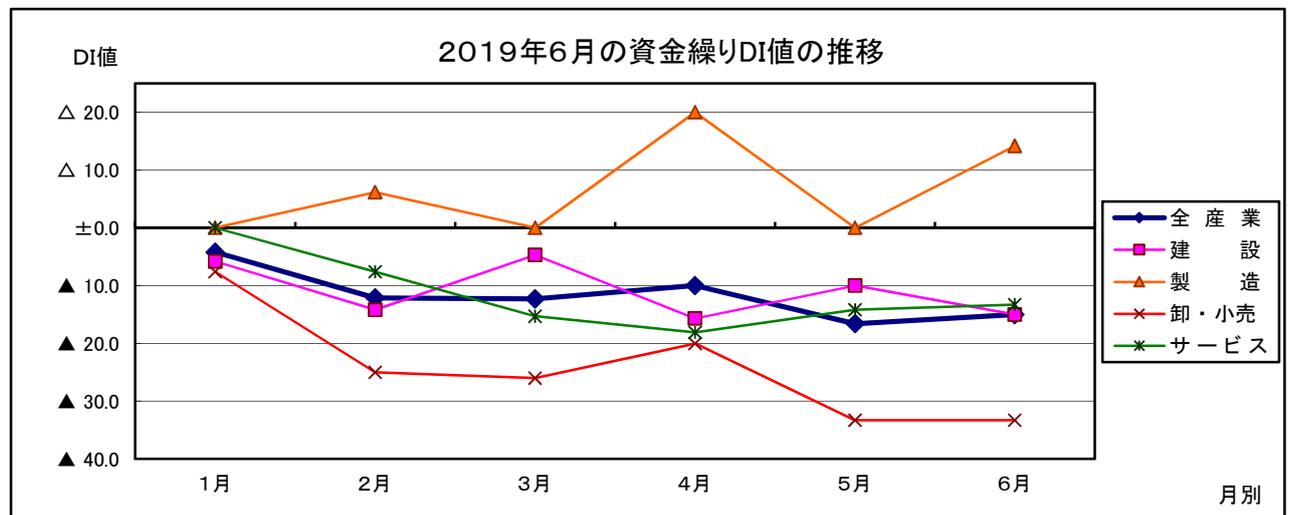
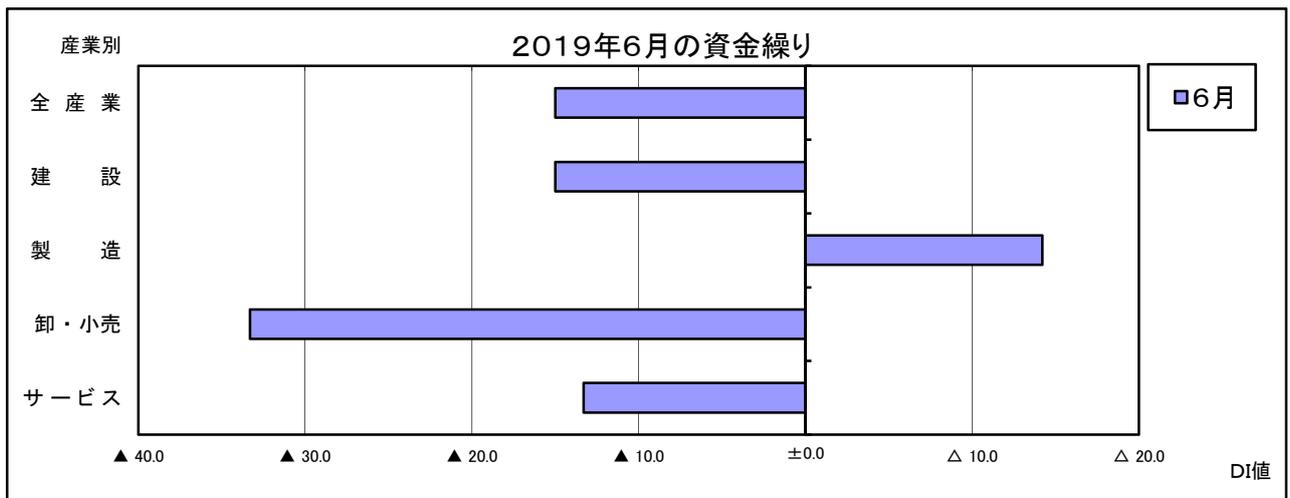
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△14.2(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲13.3(同▲14.2)である。変らない業種は、卸小売業▲33.3(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲15.0(同▲10.0)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.7(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が4.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△7.1(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲14.2)、卸小売業▲16.6(同▲20.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△5.0(同△10.0)である。

2019年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲4.2	▲12.1	▲12.3	▲10.0	▲16.6	▲15.0	▲2.7(▲6.9)
建設	▲5.8	▲14.2	▲4.7	▲15.7	▲10.0	▲15.0	△5.0(△10.0)
製造	±0.0	△6.2	±0.0	△20.0	±0.0	△14.2	△7.1(±0.0)
卸・小売	▲7.6	▲25.0	▲26.0	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲16.6(▲20.8)
サービス	±0.0	▲7.6	▲15.3	▲18.1	▲14.2	▲13.3	±0.0(▲14.2)



【2019年6月の調査結果のポイント】

《全産業況DIは改善。先行きは改善の見通しであるが、懸念材料多い》

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.9(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が0.3ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.5(同▲45.8)、製造業▲7.1(同▲14.2)、サービス業▲6.6(同▲7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲25.0(同▲10.0)である。

【建設業】からは、「節約志向が進み、必要最低限の工事しかやらないように感じる。駆け込み需要とは言い難いが、昨年よりは受注が見込めている」(一般土木建築工事業)、「材料単価の上昇よりも経費の増加が多い」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「ボーナスは生活費の一部となっているので業績の良し悪しに関わらず出しているが、社員の会社に対する貢献度によってかなりの差をつけて支給している」(自動車付属品製造業)、「病院建設着工が停滞しており、医療向け素材の受注は減少。原材料は投機対象から外れ、大幅な価格変動の影響はない」(特殊産業用機械)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「貴金属価格が不安定。金が高くプラチナは安いパラジウムが乱高下中で不安材料多し」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「夏のボーナス商戦は増税をキーワードに高額品需要に期待。しかし、中元商戦は現状苦戦。後ろ倒し傾向か」(百貨店)、「近隣に大型ドラッグストアのクリエイトが最近出店した。品揃えを見に行ったら当店の文具と一致しているものが多く、調査されていたと思った」(書籍・文房具小売業)、「キャッシュレス化への対応が様子見のまま進まない」(各種商品小売業)、「消費税引き上げによる軽減税率の対応が遅れているので不安」(洋菓子店)、「父の日が予想以上に忙しかった」(洋菓子店)、「6月中旬まで夏物中心に売上アップ。下旬から天候不順の影響が客足途絶える。年金問題も影響しているか。年度末予想として、前年度比売上、利益共にアップ」(飲食料品小売業)、「高額商品の売上が不調。秋物商品も高額品は絞り込み多く、デザインが多様化がし辛くなっている。低額品は多少伸びているが、単価が安くなっている分売上額で苦戦」(婦人・子供服小売業)、「柏駅前全体として人の動きが悪く、天候不順も加わって消費悪化。7月は参議院選挙もあり、今後も業績悪化か」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「初夏物衣料が天候気温の影響で動向悪い。父の日はイベント感が薄い。実需のお客様がほとんど」(大型小売店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「G20も安倍総理の計らいで成功裏に終了したかに見える反面、米中を核とした経済戦争の駆け引きで幕を下ろした。まさに世界は目先の読めない液化化現象に映る。低金利で万福の日本企業大手と違い、収益上がらずの中小企業。再考する時」(投資顧問)、「相続資産処分の案件が入ってきている。また、活用していない土地、建物等の有効活用に関する相談も増加。仕入価格は高止まり。低価格の戸建て、土地、マンションの引き合いが多く、活発に取引されている」(不動産管理業)、「TX線の8両化が正式決定されたが10年かかるとの事。その間はダイヤ変更のみで、沿線人口増に輸送力のピークアウトが心配」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

「人手不足だが、先行きが不明なので増員は思案中」(電気工事業)、「アルバイトを募集するが応募が少なく、必要労働力の不足は解消されていない。不足分は正社員が代替し補填」(百貨店)、「人手不足の折、今後人件費の上昇とそれに伴う法定福利費や募集経費などが予想され、収益の減少があると思う。昨今の人手不足は経営の存続問題に発展すると感じる」(飲食料品小売業)、「人員不足が深刻な状況」(日本料理)、「即戦力となる人材不足が加速中。これが黒字倒産の兆候かも」(ソフトウェア業)、「若年層の採用は公共機関経由が全くなく、民間の募集へ切替」(特殊産業用機械)、「ホワイト物流推進運動が始まり荷主企業の賛同も多い事から、労働環境の改善に繋がることを期待」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

◎働き方改革

「人材確保及び働き方改革の影響により、昨年より休日日数を増やし有給休暇の取得も奨励。しかし、実際の生産性の向上が追いつかず人件費の増加となり、業務改善、社員の意識改革が急務の状態」(自動車付属品製造業)、「零細企業にとって、働き方改革の施行は困難。事業の継続に不安が募る」(印刷業)、「働き方改革により効率的な業務運営を心掛け、生産性は向上できている」(百貨店)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	±0.0
2月	▲24.3	▲33.3	±0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△6.6	▲32.0	▲9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲7.1	▲37.5	▲6.6
見通し	▲8.2	△5.0	▲7.1	▲25.0	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.4	▲ 9.5	▲ 27.3	▲ 15.0	▲ 31.5	▲ 23.2	△ 21.9	△ 23.2
建設	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 30.0	▲ 5.0	▲ 35.0	▲ 20.0	△ 30.0	△ 35.0
製造	△ 21.4	▲ 14.2	±0.0	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 14.2	△ 28.5	△ 35.7
卸・小売	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 45.8	▲ 29.1	▲ 33.3	▲ 29.1	△ 8.3	△ 12.5
サービス	△ 6.6	△ 26.6	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 33.3	▲ 26.6	△ 26.6	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.9	▲ 8.2	▲ 15.0	▲ 2.7
建設	▲ 25.0	△ 5.0	▲ 15.0	△ 5.0
製造	▲ 7.1	▲ 7.1	△ 14.2	△ 7.1
卸・小売	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 16.6
サービス	▲ 6.6	±0.0	▲ 13.3	±0.0

【2019年6月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	節約志向が進んでいて、必要最低限の工事しかやらないように感じる。駆け込み需要とは言い難いが、昨年よりは受注が見込めている。	節約志向 受注増加	一般土木建築工事業
	材料単価の上昇よりも経費の増加が多い。人手不足だが、先行きが不明なので増員は思案中。	経費増加 人手不足 先行き不透明	電気工事業
製造業	人材確保及び働き方改革の影響により、昨年より休日日数を増やし有給休暇の取得も奨励している。しかし、実際の生産性の向上が追い付いていない為、人件費が増加し業務改善、社員の意識改革が急務の状態となっている。ボーナスは生活費の一部となっているので業績の良し悪しに関わらず出しているが、社員の会社に対する貢献度によってかなりの差をつけて支給している。	働き方改革 ボーナス	自動車付属品製造業
	病院建設着工が停滞しており、医療向け素材の受注は減少。原材料は投機対象から外れ、大幅な価格変動の影響は受けていない。若年層に採用は公共機関経由が全くなく、民間専門の募集へ切替。	受注減少(医療向け素材) 人手不足	特殊産業用機械
	零細企業にとって、働き方改革の施行は困難。事業の継続にも不安が募る。	働き方改革	印刷業
卸小売業	高額商品の売上不調。秋物商品も高額品は絞り込み多く、デザインの多様化がし辛くなっている。低額品は多少伸びているが、単価が安くなっている分売上額で苦戦。	売上不振	婦人・子供服小売業
	柏駅前全体として人の動きが悪く、天候不順も加わって消費悪化。7月は参議院選挙もあり、今後も業績悪化か。貴金属価格が不安定。金が高くプラチナは安いパラジウムが乱高下中で不安材料多い。	売上不振 貴金属価格不安定	時計・眼鏡・光学機械小売業
	初夏物衣料が天候気温の影響で動向悪い。父の日はイベント感が薄い。実需のお客様がほとんど。	売上不振(初夏物衣料)	各種商品小売業
	アルバイトを募集するが応募が少なく、必要労働力の不足は解消されていない。不足分は正社員が代替し補填している。働き方改革により効率的な業務運営を心掛け、生産性は向上できている。夏のボーナス商戦は増税をキーワードに高額品需要に期待。しかし、中元商戦は現状苦戦。後ろ倒し傾向か。	人手不足 働き方改革 ボーナス商戦	百貨店
	近隣に大型ドラッグストア(クリエイト)が最近出店した。品揃えを見に行ったら店の文具と一致しているものが多く、調査されていたと思った。	大型店出店の影響	書籍・文房具小売業
	消費税引き上げによる軽減税率の対応が遅れているので不安。	軽減税率制度の対応	菓子・パン小売業
	父の日が予想以上に忙しかった。	父の日	菓子・パン小売業
	6月中旬まで夏物中心に売上アップ。下旬から天候不順の影響が客足途絶える。年金問題も影響しているか。年度末(決算)予想として前年度売上、利益共にアップ。人手不足の折、今後人件費の上昇とそれに伴う法定福利費や募集経費などが予想され、収益の減少があると思う。昨今の人手不足は今後経営の存続問題に発展すると感じることもある。	売上・利益増加 人手不足	飲食料品小売業
キャッシュレス化への対応が様子見のまま進まない。	キャッシュレス	各種商品小売業	
サービス業	人員不足が深刻な状況。	人手不足	日本料理
	G20も安倍総理の計らいで成功裏に終了したかに見える反面、米中を核とした経済戦争の駆け引きで幕を下ろした。まさに世界は目先の読めない液状化現象に映る。低金利で万福の日本企業大手と違い、収益上がらずの中小企業。再考する時。	先行き不透明	投資顧問
	ホワイト物流推進運動が始まり荷主企業の賛同も多い事から、労働環境の改善に繋がることを期待している。	ホワイト物流推進運動	一般貨物自動車運送業
	相続資産処分の案件が入ってきている。また、活用していない土地、建物等の有効活用に関する相談も増加。仕入価額は高止まりしている。低価額の戸建て、土地、マンションの引き合いが多く、また、活発に取引されている。	低価格不動産取引活況	不動産管理業
	即戦力となる人材不足が加速中。これが黒字倒産の兆候かも。	人手不足	ソフトウェア業
TX線の8両化が正式決定されたが10年かかるとの事。その間のダイヤ変更のみで沿線人口増に輸送力のピークアウトが心配。	TX線人口増加の影響	不動産賃貸・管理業	

◎人手不足

「人手不足だが、先行きが不明なので増員は思案中」(電気工事業)、「アルバイトを募集するが応募が少なく、必要労働力の不足は解消されていない。不足分は正社員が代替し補填」(百貨店)、「人手不足の折、今後人件費の上昇とそれに伴う法定福利費や募集経費などが予想され、収益の減少があると思う。昨今の人手不足は経営の存続問題に発展すると感じる」(飲食料品小売業)、「人員不足が深刻な状況」(日本料理)、「即戦力となる人材不足が加速中。これが黒字倒産の兆候かも」(ソフトウェア業)、「若年層の採用は公共機関経由が全くなく、民間の募集へ切替」(特殊産業用機械)、「ホワイト物流推進運動が始まり荷主企業の賛同も多い事から、労働環境の改善に繋がることを期待」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

◎働き方改革

「人材確保及び働き方改革の影響により、昨年より休日日数を増やし有給休暇の取得も奨励。しかし、実際の生産性の向上が追い付かず人件費の増加となり、業務改善、社員の意識改革が急務の状態」(自動車付属品製造業)、「零細企業にとって、働き方改革の施行は困難。事業の継続に不安が募る」(印刷業)、「働き方改革により効率的な業務運営を心掛け、生産性は向上できている」(百貨店)との声が寄せられた。

2019年6月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.9に対し、「CCI-LOBO」が▲18.3で柏の方がマイナス幅が3.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.4に対し、「CCI-LOBO」が▲11.9で柏の方がマイナス幅が4.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.3に対し、「CCI-LOBO」が▲18.1で柏の方がマイナス幅が9.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.5に対し、「CCI-LOBO」が▲40.7で柏の方がマイナス幅が9.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、建設業、製造業は10ポイント以上良い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△21.9に対し、「CCI-LOBO」が△22.8で柏の方がプラス幅が0.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.0に対し、「CCI-LOBO」が▲9.6で柏の方がマイナス幅が5.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。

2019年6月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.9	 ▲ 25.0	 ▲ 7.1	 ▲ 37.5	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 18.3	 ▲ 9.5	 ▲ 20.0	 ▲ 28.3	 ▲ 10.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.4	 ▲ 20.0	 21.4	 ▲ 50.0	 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 11.9	 ▲ 4.3	 ▲ 15.8	 ▲ 24.1	 1.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.3	 ▲ 30.0	 ±0.0	 ▲ 45.8	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 18.1	 ▲ 12.3	 ▲ 23.5	 ▲ 24.1	 ▲ 9.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 31.5	 ▲ 35.0	 ▲ 21.4	 ▲ 33.3	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 40.7	 ▲ 47.5	 ▲ 46.8	 ▲ 34.2	 ▲ 37.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.9	 30.0	 28.5	 8.3	 26.6
CCI-LOBO	 22.8	 36.8	 11.5	 19.5	 30.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.0	 ▲ 15.0	 14.2	 ▲ 33.3	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 9.6	 ▲ 1.5	 ▲ 10.9	 ▲ 16.0	 ▲ 8.4

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：2019年6月13日～19日

調査対象：全国の339商工会議所が2656企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、足踏み状況。

先行きは、不透明感増す中、慎重な見方が根強い

5月の全産業合計の業況DIは、▲18.3と、前月から▲1.2ポイントの悪化。インバウンド需要の堅調な動きに加え、都市部の民間

工事を中心とする建設業が底堅く推移する一方、深刻な人手不足による受注機会の損失や人件費・外注費の増大、根強い消費者の節約志向、原材料費の高止まりによる収益圧迫が広く業況の押し下げ要因となった。また、米中貿易摩擦の影響に伴う半導体や産業用機械、自動車関連の不振や、世界経済の先行き不透明感の広がりを指摘する声は依然として多く聞かれ、中小企業の景況感には足元で鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲19.5(今月比▲1.2ポイント)と悪化を見込む。個人消費の拡大やインバウンドを含む夏の観光需要拡大への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費

の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦の激化、世界経済の動向、消費税引上げの影響など不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な姿勢が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「住宅リフォーム用の補助金制度を営業ツールとして活用し、顧客に案内しており売上は増加している。しかし、原材料の仕入価格や人件費上昇の負担は大きく、採算の確保に難航している」(建築士事業、「現場を管理する技術者の不足は受注件数に直結する問題であり、最大の懸念材料となっている。作業員の高齢化も進んでおり、受注案件を絞り込

まざるを得ず、売上が伸び悩んでいる」(一般工事業)

【製造業】「取引先メーカーにおいても対中輸出が減少しており、米中貿易摩擦の影響が見られる。建機用の部品の動きが昨年に比べ明らかに悪化しており、売上高の前年割れは避けられない。イギリスのEU離脱などのヨーロッパ情勢を含め、今後の動向を注視している」(計量器測定器等製造業)、「米中貿易摩擦により完全に潮目が変わった。既存業界とは異なる新分野への取組みを積極的に進めており、売上確保につなげたい」(金属加工機械製造業)

【卸売業】「消費者の節約志向を背景に、食料品等の引き合いが鈍い。仕入れ価格や人件費、運送費などあらゆるコストが上昇しているが、販売価格への転嫁は難しく、収益は悪化している」(飲食料品卸売業)、「廃プラスチック輸入規制の影響を大きく受ける業界であり、売上・採算ともに悪化している。先行きも非常に厳しく、予定していた設備投資を見送る可能性も出てきた」(再生資源卸売業)

【小売業】「ゴールデンウィーク後の反動減を懸念していたが、爆買い傾向は収束したものの引き続き堅調なインバウンド需要により売上は増加した。働き方改革による消費者のライフスタイルが変化したのか、夜遅い時間帯の集客に苦戦するようになった」(各種商品小売業)、「消費者の財布のひもは堅く、中元商戦は苦戦しているが、後半戦に期待している。また、今年度は消費税引上げ前にボーナス商戦を迎えるため、高額の需要増の取り込みを図る」(百貨店)

【サービス業】「インバウンド需要は堅調で、中国からの個人客やヨーロッパ方面からの観光客が昨年よりも増加している。今後に向けて新規設備投資を計画しており、消費税引上げ前にPOSレジを導入する予定」(公園・遊園地)、「ドライバー不足は依然として深刻であり、受けられない依頼も多い。料金改定を進めてはいるが大きな売上増にはつながらず、採算確保に難航している。今後の輸送力維持のため、人手不足解消に向けた早急な取組みが課題である」(運送業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲16.0	▲6.3	▲12.0	▲17.9	▲36.3	▲8.6
2月	▲18.1	▲8.5	▲12.2	▲23.1	▲32.4	▲15.6
3月	▲16.9	▲5.8	▲16.6	▲22.4	▲29.5	▲11.7
4月	▲16.7	▲3.9	▲18.3	▲20.5	▲33.9	▲7.9
5月	▲17.1	▲7.7	▲22.3	▲19.8	▲29.4	▲6.7
6月	▲18.3	▲9.5	▲20.0	▲25.5	▲28.3	▲10.9
見通し	▲19.5	▲8.0	▲21.3	▲27.2	▲31.3	▲12.3

柏の景気情報

(6月の調査結果のポイント)

調査期間：2019年6月24日～7月7日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数73件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	± 0.0
2月	▲24.3	▲33.3	± 0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲ 7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△ 6.6	▲32.0	▲ 9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲ 7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲ 7.1	▲37.5	▲ 6.6
見通し	▲ 8.2	△ 5.0	▲ 7.1	▲25.0	± 0.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「**柏市の業況**」
全産業況D Iは改善。先行きも改善の見通しであるが、懸念材料多い

6月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.9(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が0.3ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.5(同▲45.8)、製造業▲7.1(同▲14.2)、サービス業▲6.6(同▲7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲25.0(同▲10.0)

である。

【建設業】からは、「節約志向が進み、必要最低限の工事がやらなければならないと感じる。駆け込み需要とは言い難いが、昨年よりは受注が見込めている」(一般土木建築工事業)、「材料単価の上昇よりも経費の増加が多い」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「ポータスは生活費の一部となっているので業績の良し悪しに関わらず出しているが、社員の会社に対する貢献度によってかなりの差をつけて支給している」(自動車付属品製造業)、「病院建設着工が停滞しており、医療向け素材の受注は減少。原材料は投機対象から外れ、大幅な価格変動の影響はない」(特殊産業用機械)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「貴金属価格が不安定。金が高くプラチナは安い。パラジウムが乱高下中で不安材料多し」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「夏のポータス商戦は増税をキープワードに高額品需要に期待。しかし、中元商戦は現状苦戦。後ろ倒し傾向か」(百貨店)、「近隣に大型ドラッグストアのクリエイトが最近出店した。品揃えを見に行ったら、この当店の文具と一致しているものが多く、調査されていたと思う」(書籍・文房具小売業)、「キャッシュレス化への対応が様子見のまま進まない」(各種商品小売業)、「消費税引き上げによる軽減税率の対応が遅れているので不安」(洋菓子店)、「父の日が予想以上に忙しかった」(洋菓子店)、「6月中旬まで夏物中心に売上アップ。下旬から天候不順の影響が客足途絶える。不順の問題も影響しているか。年度末予想として、前年度比売上、利益共にアップ」(飲食料品小売業)、「高額商品の売上が不調。秋物商品も高額品は絞り込み多く、デザインが多様化がし辛くなっている。低額品は多少伸びているが、単価が安くなっている分売上額で苦戦」(婦人・子供服小売業)、「柏駅前全体として人の動きが悪く、天候不順も加わって消費悪化。7月は参議院選挙もあり、今後も業績悪化選挙もあり、今後も業績悪化か」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「初夏物衣料が天候気温の影響で動向悪い。父の日はイベント感が薄い。実需の回復がほとんど」(大型小売店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「G20も安倍総理の計らいで成功裏に終了したかに見える反面、米中を核とした経済競争の駆け引きで幕を下ろした。まさに世界は目先の読めない液状化現象に映る。低金利で万福の日本企業大手と違い、収益上がらずの中小企業。再考する時」(投資顧問)、「相続資産処分案件が入ってきている。また、活用していない土地、建物等の有効活用に関する相談も増加。仕入価額は高止まり。低額額の戸建て、土地、マンションの引き合いが多く、活発に取引されている」(不動産管理業)、「TX線の8両化が正式決定されたが10年かかるとの事。その間はダイヤ変更のみで、沿線人口増に輸送力のピークアウトが心配」(不動産賃貸管理業)などのコメントが寄せられた。

【6月の景気キーワード】

◎人手不足
「人手不足だが、先行きが不明なので増員は思案中」(電気工事業)、「アルバイトを募集するが応募が少なく、必要労働力の不足は解消されていない。不足分は正社員が代替し補填」(百貨店)、「人手不足の折、今後人件費の上昇とそれに伴う法定福利費や募集経費などが予想され、収益の減少があると思う。昨今の人手不足は経営の存続問題に発展すると感じる」(飲食料品小売業)、「人員不足が深刻な状況」(日本料理)、「即戦力となる人材不足が加速中。これが黒字倒産の兆候かも」(ソフトウェア業)、「若年層の採用は公共機関経由が全くなく、民間の募集へ切り替」(特殊産業用機械)、「ホワイト物流推進運動が始まり荷主企業の賛同も多い事から、労働環境の改善に繋がることを期待」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

◎働き方改革
「人材確保及び働き方改革の影響により、昨年より休日日数を増やし有給休暇の取得も奨励。しかし、実際の生産性の向上が追い付かず人件費の増加となり、業務改善、社員の意識改革が急務の状態」(自動車付属品製造業)、「零細企業にとって、働き方改革の施行は困難。事業の継続に不安が募る」(印刷業)、「働き方改革により効率的な業務運営を心掛け、生産性は向上できている」(百貨店)との声が寄せられた。

【全国の商工会議所早期景気観測調査(CCT-10B)との比較】
全産業合計では、「柏の景気」が▲21.9に対し、「CCI-LOBO」が▲18.3で柏の方がマイナス幅が3.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。

【6月の景気キーワード】
◎人手不足
「人手不足だが、先行きが不明なので増員は思案中」(電気工事業)、「アルバイトを募集するが応募が少なく、必要労働力の不足は解消されていない。不足分は正社員が代替し補填」(百貨店)、「人手不足の折、今後人件費の上昇とそれに伴う法定福利費や募集経費などが予想され、収益の減少があると思う。昨今の人手不足は経営の存続問題に発展すると感じる」(飲食料品小売業)、「人員不足が深刻な状況」(日本料理)、「即戦力となる人材不足が加速中。これが黒字倒産の兆候かも」(ソフトウェア業)、「若年層の採用は公共機関経由が全くなく、民間の募集へ切り替」(特殊産業用機械)、「ホワイト物流推進運動が始まり荷主企業の賛同も多い事から、労働環境の改善に繋がることを期待」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

【6月の景気キーワード】
◎人手不足
「人手不足だが、先行きが不明なので増員は思案中」(電気工事業)、「アルバイトを募集するが応募が少なく、必要労働力の不足は解消されていない。不足分は正社員が代替し補填」(百貨店)、「人手不足の折、今後人件費の上昇とそれに伴う法定福利費や募集経費などが予想され、収益の減少があると思う。昨今の人手不足は経営の存続問題に発展すると感じる」(飲食料品小売業)、「人員不足が深刻な状況」(日本料理)、「即戦力となる人材不足が加速中。これが黒字倒産の兆候かも」(ソフトウェア業)、「若年層の採用は公共機関経由が全くなく、民間の募集へ切り替」(特殊産業用機械)、「ホワイト物流推進運動が始まり荷主企業の賛同も多い事から、労働環境の改善に繋がることを期待」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

【6月の景気キーワード】
◎人手不足
「人手不足だが、先行きが不明なので増員は思案中」(電気工事業)、「アルバイトを募集するが応募が少なく、必要労働力の不足は解消されていない。不足分は正社員が代替し補填」(百貨店)、「人手不足の折、今後人件費の上昇とそれに伴う法定福利費や募集経費などが予想され、収益の減少があると思う。昨今の人手不足は経営の存続問題に発展すると感じる」(飲食料品小売業)、「人員不足が深刻な状況」(日本料理)、「即戦力となる人材不足が加速中。これが黒字倒産の兆候かも」(ソフトウェア業)、「若年層の採用は公共機関経由が全くなく、民間の募集へ切り替」(特殊産業用機械)、「ホワイト物流推進運動が始まり荷主企業の賛同も多い事から、労働環境の改善に繋がることを期待」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。